

式 辞

本日はご卒業おめでとうございます。また長い間、皆さんを暖かく支えてくださったご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。皆さんはこの宮崎国際大学で多くの先生方、先輩、後輩、友人などと知り合い、また宮崎の地で、いろいろな方と出会い、切磋琢磨して社会人として出発するにふさわしい能力を身に付けたことと思います。

確かに楽しい思い出ばかりではなかったでしょう。苦勞したこと、困難にぶつかったことの方が多かったかも知れません。それらを乗り越え、たくましく成長されたことを私達宮崎国際大学教職員一同は大変うれしく敬意を表する次第です。

本日卒業を迎えられた皆さんに、学長として、一言、お祝いのメッセージを送りたいと思います。それは、「自分を客観的に見つめられる賢い人間として、社会で活躍して頂きたい」と言うことです。

今回のコロナウイルスの感染症で、わが国でもすでに1万5千人以上が亡くなりました。世界では、45万人以上が亡くなり、これは宮崎県人口の約半分に相当します。これは災害と言いますが、人間が防げたもので人災とも言えます。また地球の温暖化で世界中の人たちが豪雨、森林火災、台風、干ばつなどに見舞われています。これも災害と言いますが、温暖化を招いたのは人間であり、人災とも言えます。私たちは、グローバル化した現代において、このような人災ともいえる災害を世界の調和と協力を持って防がなければなりません。さて、それでは、自分を客観的に見つめるとは、どういうことでしょうか？

自分を客観的に見つめれば、相手への気配りができ、相手の意見を聞き、適度な距離感を保ち、自分の弱点を把握でき、自分に何ができて、何ができないかを知ることなどが可能と言うことです。この可能能力が集結すれば、世界のいろいろな問題や災害の重要性を認識し合い、その解決法を導き出す力になります。

卒業生の皆さんは4年間の教育、特にリベラルアーツ教育を得て、知識人となりました。この知識人は高い論理性と高い志を持ち、多様な国の文化を理解しあい、発展する社会を作る義務が課せられていると認識して頂きたいと思います。

最後になりますが、本学の建学の精神である「礼節と勤勞」はいつまでも心に刻んでいて欲しいと思います。礼節は他を重んじ、他を尊重し、おもてなし、ダイバーシティ、寛容、の精神など幅広い意味を含み、一方の勤勞は向上心や高い志を持ち、目標に向かって努力する、自分を鍛えることを意味します。社会人になってもこの建学の精神を持ち、社会で大いに活躍していただけることを祈念して、私からの式辞と致します。

本日は誠にありがとうございます。

令和3年9月15日

宮崎国際大学 学長
村上 昇